

えんちょう通信

No.113

令和5年12月4日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤一男

地域の方の優しさにふれて



先週の11月28(火)は、年少組と年長組の子どもたちみんなで阿部久夫さんのりんご畑にりんご狩りに行きました。

今回は、定期的な預かり保育モデル事業のたんぽぽ組の3歳の子どもたちとその保護者のみなさまと一緒に行きました。りんごの木は、子どもたちが手でもいでとれるように、木の下の方にりんごが実るように仕立てられています。子どもたちは、真っ赤なりんごを自分の手でとって、大事そうに袋に入れていました。大きなりんごを一人3個もとらせてもらいました。

一緒に引率して下さった「たんぽぽ組」の保護者の方の感想を紹介します。

- 道路を横断するとき、しっかり右、左を見て渡っていて素晴らしいと思いました。
- りんごのたくさんなる木を間近で見ることができて、子どももうれしそうでした。
- 初めてのりんご狩りで、間近でりんごの木を見て、目がキラキラしていました。自分でとったりんごを袋に入れてから、中をのぞきこんでニコニコしていたので、参加してよかったなと思いました。
- 自分がとったりんご3個、重いだろうに、ビニール袋をちゃんと持っていて、それがすごく素敵だなと思いました。
- 子どもたちの喜ぶ顔が見たくて、真っ赤な優秀な木のりんごを残して下さっていたのかなと思いました。ありがとうございました。
- 子どもたちの小さな手で、大きなりんごを一生懸命とる姿がかわいかったです。
- とても美味しいりんごで、家族みんなでいただきました。ありがとうございました。自分でもいでとるという体験を初めてできて、親子で楽しめました。地域の方の優しさにふれた一日でした。

阿部さんは、「りんごの栽培では、冬の剪定が一番大変なんです。」と話しておられました。冬の冷たい風の中で丁寧にりんごの枝を剪定する作業があって初めて、こういう大きくて真っ赤なりんごが実るんだなと思いました。

教育も、子どもたちとの毎日の関わりや応答を、丁寧に繰り返していくことが大切なのだなど、改めて思いました。